

倉敷市・高知市・奈良市 3市社協合同研修会を実施

令和5年11月14日

研修報告

被災者支援と平時における 福祉施策との連携

令和5年11月1日（水）・2日（木）、岡山県倉敷市の「くらしき健康福祉プラザ」および「倉敷物語館」にて、倉敷市・高知市・奈良市社会福祉協議会で締結している「災害時等に関する相互支援に関する協定」第9条に基づき、3市社協合同研修会を実施いたしました。

今回の研修では、重層的支援体制整備事業と被災者支援をテーマに、平時の福祉施策との連携について検討いたしました。



▶ 1日目

倉敷市社協 次長 佐賀雅宏氏による基調提案「被災者支援から見てきた重層的支援体制整備の必要性」から本研修が始まりました。「真備支え合いセンター」での取り組みを平時の取り組みにするためには、①相談を断らない②世帯全体を捉えた支援③定期的な訪問活動④民間団体との連携・協働・資源開発⑤民生委員・地区社協等との連携による地域づくりが重要であることを伝えていただきました。

後半の分科会では、「相談支援ってどうしてる？～複合的課題を抱える世帯の支援～」「教えて！地域特性を生かしたインフォーマルな活動～参加支援のヒント～」「何でも話し合おう！総務の苦悩～支援活動を支える法人運営」をテーマに日頃の担当業務ごとに分かれ課題の共有や意見交換等を行いました。

▶ 2日目

倉敷物語館での研修では、被災者支援の実践報告として倉敷市社協 真備支え合いセンター主事 佐藤大那氏より社協活動の特徴である住民ニーズに基づく協力と連携を具現化した支え合いセンターでの事例を紹介していただき、その後、グループワークを通じて感想や意見を共有しました。

研修の最後には、重層的支援体制整備事業で大事なこと・行政との携わり方についてトークセッションが行われ、本格実施に向け移行準備業務に取り組むイメージも膨らますことができました。